

第7回 岐阜県新型コロナウイルス感染症 教育推進協議会 議事概要

日 時	令和3年1月21日（木） 10:30～11:30
場 所	県庁4階 特別会議室
出席者	<p><委員> 15名 松川 禮子 委員、益子 典文 委員、小川 信也委員（安藤正弘氏 代理出席）、 安福 正寿 委員、早川 三根夫 委員、名取 康夫 委員、折戸 敏仁 委員、 七野 武稔 委員、河井 洋子 委員、下屋 浩実 委員、河合 直樹 委員、 小川 敏 委員、岡崎 和夫 委員、村上 啓雄 委員、竹内 治彦 委員 （小川敏委員、岡崎委員はWeb会議システムで参加）</p> <p><県> 知事、河合副知事、平木副知事、教育長（委員） 環境生活部長、私学振興・青少年課長 副教育長、教育次長、義務教育総括監、教育総務課長 他</p>
議題	<p>議題1 県内の感染状況及び学校におけるクラスターの発生について 議題2 緊急事態宣言を踏まえた対応状況について</p>
配布資料	<p>資料1 県内感染状況及び学校におけるクラスターの発生について 資料2 緊急事態宣言を踏まえた対応状況について 参考資料1 学校における新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言を踏まえた新型コロナウイルス感染症への対応について（令和3年1月14日付け教総第472号） 参考資料2 緊急事態対策（令和3年1月14日）</p>

議事概要

それぞれの議題について事務局から資料に基づき説明。主な意見は次のとおり。

<県内感染状況及び学校におけるクラスターの発生について>

- ・ 学校現場では感染予防を徹底していると思うが、昼食時間にマスクを着用していない場面がある等クラスターが起こる時は、必ずどこかに隙がある。
- ・ 特に症状のある人は感染力が高いと言われているため、健康チェックを徹底しつつ、誰もがウイルスを持っている可能性があるという前提で、ユニバーサルな感染対策をすべきである。

<緊急事態宣言を踏まえた対応状況について>

- ・ 学校でのクラスター発生について、現場での対策の徹底を確認できていなかった事例もあったことから、もう一度学校においてコロナガードが適切に機能しているかをしっかりとチェックする必要がある。

- 現場の教員や部活動のキャプテン等がコロナガードの役目を果たし、対策を徹底してもらいたい。
- 学校で感染者が発生した時に、原因を分析して職員や生徒に共有し、共通認識を持つことで、感染対策の隙を作らないようにすることが重要である。
- 若い人に理解してもらいたいのが、全身倦怠、筋力低下などの後遺症は、感染後半年経っても6割程度の患者に残っていることである。高校生でも一度感染すると、部活動における大事な場面でのパフォーマンスに影響が出うる。
- 若ければ感染してもすぐに治るから大丈夫ではなく、後遺症で後悔することも起こりうることを指導してもらいたい。
- 卒業式などの行事について、合唱における飛沫は横にはあまり飛ばないので、前後の距離を十分確保した上でマスクを着用すれば実施可能と考える。
- また、マスク着用の上、換気等の感染症対策をしっかり行えば、保護者を入場させることも可能と考える。
- 不織布マスク以外は効果がないという話題があるが、いずれのマスクであっても感染予防の効果は限定的であり、重要なのはどのマスクであってもしっかりと着用することで感染を広げないことである。